

“すばらしきみえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2024.2

238号

■特集／三重の山・川・里・海を守る

●いま、グループネット／みんなの食堂こむすび舎めいわ町 ●みえを歩こう／名張市 奈垣周辺



特集 三重の山川・里・海を守る

南北に長い三重県では、多彩な自然環境が見られます。山々に降り注いだ雨は大地に染み込んで川となり、里山や里地などを潤しながら流れ、やがて海へと注ぎ込みます。それぞれの自然は密接につながることによって多様な生物をはぐくみ、私たちの暮らしを支えてくれています。今回は、地域の自然を守り、次世代へと引き継ぐために活動している6グループをご紹介します。

※各グループが行うイベントや行事活動に関しては、日時、場所、料金受け入れ方法や人数などに違いがあり、状況に応じて延期・休止する場合があります。事前に必ずご確認ください。

取材・文……中村真由美・中村元美・堀口裕世・中川絵美子
撮影……梅川紀彦・尾之内孝昭
ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

子どもたちが思いっきり遊べる、再生可能な里山づくり

いなべの里山を守る会

【いなべ市員弁町・大安町】

「いなべ市内には多くの里山がありますが、人が入れないほど荒れているのが現実です」と話すのは、辻久好さん。山と集落の間に位置する里山は、特有の生態系を形成し、木材や食料などの資源を供給する重要な場所といえます。里山の状況に危機感を抱いた辻さんが、「いなべの里山を守る会（会員数17人）」を結成したのは平成24（2012）年のこと。これまでに員弁町と大安町内の4か所で、倒木の伐採や草刈りなどに取り組んできました。

現在、主な活動場所は、大安町の両ヶ池に隣接する一画。地域の保育園児の野外学習の場として、子どもも大人も一緒に遊べる場として、子どもも大人も一緒に遊んでいます。また、季節に応じた学びと遊びを融合した遊びの会も開催。昨年春には、イタドリなどの植物の名前や特徴を元教師から学ぶ「春探し」「夏休

み期間中には「竹トンボ作り」や「ガールスカウトによる「ポップコーン作り」を行いました。

11月に実施した「里山の秘密基地づくり」では、午前と午後の2回にわたって約30人の小学生と保護者が参加。開始早々、「やったー！いいもの見つけたよ」「こっちはも切つてよ」「窓も作りたい」と、あちこちから弾んだ声が聞こえてきました。

ノコギリで切った竹をテントや小屋のように組んで植物の蔓で縛ったり、竹の葉を重ねて壁にしたりと、思い思いの秘密基地が完成し、皆さんの表情も満足そうでした。

「私たちの活動に終わりはありません。現在、近くの車体工場の従業員も手伝ってくれますが、若い世代や子どもたちに受け継いでもらうことが大切だと思っています



自生する竹を切って秘密基地の材料に



里山整備の様子



辻 久好さん



「いなべの里山を守る会」の皆さんと「里山の秘密基地づくり」午前の部参加者

す」と辻さん。子どもたちが思いっきり遊べる里山づくりのため、同会の地道な活動は今後も続きます。

お問い合わせ

「いなべの里山を守る会」

TEL 090-3956-0013

辻久好代表

メダカが泳ぐ自然学習の場、
憩いの場を子どもたちへ

智積自然の会

〔四日市市智積町〕



「泥んこ綱引き大会」※

平成11(1999)年、四日市市智積町大字初瀬の地に、ある学校が誕生しました。6月には周辺地域の各自治会に加えて、幼稚園児などが参加して開校式が行われた学校の名は、「初瀬ビオトープの谷メダカの学校」です。ビオトープとは、特定の生物群集が生き生きできる環境条件を備えた最少の空間単位のこと。清らかな水を湛えた大小4つの池には、数千匹のメダカをはじめとして、ヤゴ、アメンボウ、タニシなどの水生生物が生息し、夏期にはハスやホテイアオ

イ、コウホネなどの花が咲き誇ります。

開校から25年が過ぎた現在でも、背後の一生吹山山頂までのハイキングや散策を楽しむ人々の休憩場所として、周辺地域住民の憩いの場として親しまれている同校を造成し、継続して整備を行っているのは、地域住民有志で結成された「智積自然の会」の皆さん。毎月第2日曜日の午前中に草刈り作業を行うと伺い、昨年11月に訪ねると、草刈り機を手にした皆さんが作業を始めるところでした。



昨年11月の草刈りに参加した「智積自然の会(会員数40人)」の皆さん



伊藤 隆夫さん

「休耕田に竹林が浸食して荒れ放題だったので、本来の緑豊かな姿に戻して子どもたちに引き継ぎたいと話合ったのがきっかけです」と、会長の伊藤隆夫さん。その時に参考にしたのは、以前から交流のあった多気郡多気町(旧勢和村)のビオトープだったことなどを教わりながら、入口から坂道を上っていくと80メートル程度進んだところで池が出現。池の上や周囲には遊歩道が整備され、藤棚やベンチも設置されていました。フジの開花時期には、親子連れがお弁当持参で訪れるというのも頷けます。

この日は急に寒くなったためか、メダ



遊歩道が整備されたビオトープ



草刈り作業の様子



「メダカの放流」※



「メダカ・マルシェ(縁日)」※

カの泳ぐ姿は見られず、聞こえてくるのは、草刈り機の運転音のみでしたが、2年に1度開催の「メダカの学校・ちしゃくの自然ふれあいまつり」では、周囲一帯に人々の歓声が響き渡るといいます。昨年7月に開催された際の内容は、「メダカの放流」「ビオトープ・宝さがしゲーム」「泥んこ綱引き大会」「メダカ・マルシェ(縁日)」など。中でも一番盛り上がるのは「泥んこ綱引き大会」。小学生以下の子どもたちはもちろんのこと、中高生や大人たちも泥んこになってハシヤグため、「元氣すぎるから大変や」と話す伊藤さんの表情も和らいで見えまし

た。なお、大会の優勝賞品は「智積のお米」60キログラムで、町内を流れる名水「智積養水」で育てた自慢のお米だといいました。

やがて季節は水温む春、「初瀬ビオトープの谷メダカの学校」を訪ねれば、メダカたちが元気に泳いでいることでしょう。そして、第2日曜日には、黙々と草刈り作業に励む皆さんの姿が見られるでしょう。

お問い合わせ

「智積自然の会」

TEL090-7021-5716

伊藤隆夫会長

水辺を守る小さな「魚博士」が続々

魚と子どもものネットワーク

【亀山市栄町】



「どんな魚に出会えるかな」…鈴鹿川河口にて

亀山市を基盤に活躍する「魚と子どもものネットワーク」。鈴鹿川河口（四日市市）での活動にお邪魔しました。幼児から小中学生の子どもたちを高校生がリードし、大人と一緒にゴミを拾います。ゴミ拾いの後、魚やカニなど水辺の生物を捕り、水槽に入れての学習会。よく見

て学んだあとは、生き物を川に戻します。今回はゴミが多いのですが、積極的な順序を変えたそうですが、積極的にゴミを拾い、目を輝かせて魚を見つめる子どもたちの自主的な動きが印象に残りました。

この会の代表の新玉 拓也さんは、名



「この魚は何か？」と萩さん



代表の新玉 拓也さん

古屋大学の大学院で環境保全について研究し、琵琶湖で魚を守る活動をしていた頃、幼なじみで2歳年下の峯和也さんと再会しました。当時、彼は三重大学や大阪芸術大学で都市計画やビオトープなどの視点で環境について学んでいたといえます。幼い頃、実家近くの川などで一緒に遊んでいた二人。「会って話が弾み、水辺の生き物が見られなくなり、川で遊ぶ子どもが少なくなった現状を何とかしたいと、平成20（2008）年、この会を立ち上げました」。

に入ったという中学生や、カニの種類をたくさん知っている小学生など、小さな「魚博士」が、たくさん生まれているようです。



ゴミ拾いも一生懸命

池干しをして生態系を保全する取り組みや、「鈴鹿川探検隊」と銘打って河川の清掃など水辺の環境を守る活動と並行し、子どもたちに水辺での楽しみ方や生き物についての知識などを伝えています。「体験してもらって、子どもの頃の楽しかった気持ちを伝えたいんです。そこから、もっと詳しく知りたいという意欲がわいてくれると嬉しいですね」と新玉さん。若者たちが熱い思いに駆られて始めた活動は15年を経て、その思いはしっかり次世代に伝わっています。

「小さい子には、海や川で遊ぶ楽しさと一緒に、その怖さも伝えたい。ぼくらの活動を見た人には、大人が排出したであろうゴミを子どもたちが拾っているという現実について考えてほしい」と語るのには、「魚と子ども kidsクラブリーダー」として子どもたちを率いる萩 琉稀さん。この活動に参加したことから水辺の生物に興味を持ち、環境にも問題意識を持つようになったという高校生です。他にも、この会での活動経験から科学部

一方で、会では里山の管理にも関わっています。「子どもの頃の通学路に『亀山里山公園みちくさ』という自然公園が出来たことをきっかけに、行政と掛け合い、昆虫や植物などの活動をしているグループや地域の人などに呼びかけて、『亀山里山公園みちくさ管理運営協議会』を立ち上げました。こちらは、峯さんが会長を務め、春から秋は月に1度、『里山塾』を開いて、動植物について学ぶ講座を行っています」と新玉さん。

他にもメンバーは、シンポジウムや講演会、研究会などで啓発活動や研究発表を重ねたり、環境教育やまちづくりなどのコーディネートとしても活躍して



たくさんのゴミと記念撮影。「滝沢ごみクラブ2023ごみフェス」ののぼりとともに。今回のゴミ拾いは、5月に「滝沢ごみクラブ」と連携して行った企画を引き継いだもの。

お問い合わせ

「魚と子どもものネットワーク」

TEL 090-1478-4756

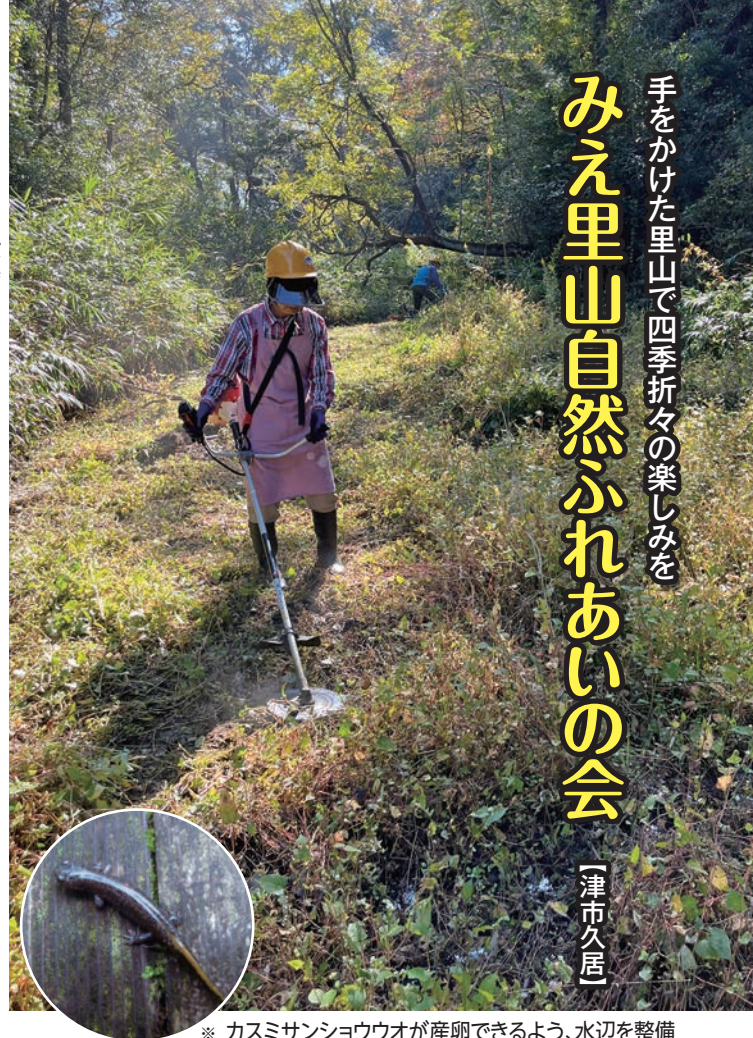
新玉 拓也代表

います。「本業との両立など大変なことは多いのですが、何よりも、自然環境の現状を、少しでも多くの人に知ってもらいたいのです」。真摯な思いが精力的な活動の原動力です。

手をかけた里山で四季折々の楽しみを

みえ里山自然ふれあいの会

【津市久居】



※ カスミサンショウウオが産卵できるよう、水辺を整備



事務局長の井上 啓さん

「いすね」。
お話を聞きながら林の中を歩くと、木立の間に造られた広場や果樹園などがきれいに整えられ、手入れが行き届いていることに驚かされます。
「週三回、毎週月、水、金曜日に整備などを行っているんです。1万1千坪という広さですから大変なんです。が、こまめに手を掛けないとあっという間に荒れてしまうんですよ。草はすぐに伸びてしまいますし、台風が来れば倒木もありますからね。整備以外にも、年間10数回のイベントを行っています。」

津市久居の「柏尾学習林」は、住宅街の近く。広大な森林を背景に、人の手が加えられたのびやかな空間が、訪れた人を心地よく迎えてくれる里山です。ここを管理運営しているのは、「みえ里山自然ふれあいの会」。事務局長の井上 啓さんにお話を聞きました。

「法人の設立は平成9（1997）年で、初めは『NPO三重の里山を考える会』という名称でしたが、15年目に『NPO法人みえ里山自然ふれあいの会』に変更しました。活動は今年で26年目で、私も参加してから20年余りになります。現在の会員は60人程で、男女比は半々くら

は面白くありませんし、会員以外の方にもこの場所のことを知ってほしいと思って始めました」と井上さん。

そのために果樹を植え、キノコや山菜を育て、虫たちが成長しやすい環境を整えています。ほかに、ササユリの群生地やカスミサンショウウオの産卵地の整備、渡りをする蝶・アサギマダラが立ち寄るためにヒヨドリバナやフジバカマを植えるなど、花や生き物の命を守るための地道な努力が続いています。環境のバランスが崩れると消えてしまう危うい命です。

「もともと、里山というのは、集落の人

たちの生活の糧を得る場で、人に必要な場所だったんです。でも今はそうではなくなり、荒れてしまったり、なくなったりしているでしょう。みんなで力や知恵を出し合って、里山を整備し、守っていきたいと思っています。サクラやフジ、ハンゲショウなど、四季折々に花も楽しめますし、果樹のほかドングリやアケビなどの実もあります。蝶や小鳥もたくさん飛び交っていますね。自然に害を加えない配慮はしてほしいし、一人でたくさん虫を捕るようなことはやめてほしいですが、会員でない方たち、子どもさんにも大人の方にも、気軽に立

ち寄って、楽しんでもらいたいと思っています。」

『里山の声』という冊子も、ウェブ上や冊子で発行。行けば爽やかな気持ちになれる、人にやさしい学習林です。

お問い合わせ

「みえ里山自然ふれあいの会」

TEL 090-1744-8457

井上 啓事務局長



冊子『里山の声』※



爽やかな「ふれあい広場」



サツマイモの苗を植える※



カブトムシやクワガタムシがいっぱい※



森の中でコンサート



掘ったサツマイモを焼き芋に※

※印の写真は取材先から提供していただきました

豊かな海を取り戻す
県境を超えたソーシャルイベント

22世紀奈佐の浜 プロジェクト委員会

〔鳥羽市答志四日市市〕



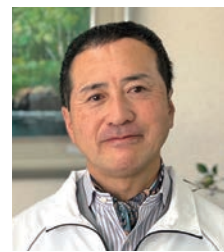
「第11回奈佐の浜プロジェクト」でのゴミ回収(令和5年10月8日)※

奈佐の浜は鳥羽市の離島、答志島にある砂浜です。この浜で毎年10月の日曜にゴミを回収するソーシャルイベントが「22

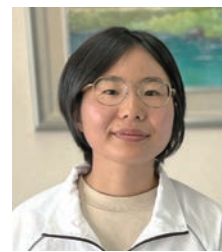
世紀奈佐の浜プロジェクト」が設立され、伊勢湾・三河湾の流域・沿岸である三重県、岐

世紀奈佐の浜プロジェクト委員会」の主催で行われています。平成24(2012)年から実施され、令和5年も150人の参加がありました。伊勢湾に浮かぶ答志島は、木曾三川から流れ込む栄養豊富な山の水や、黒潮がもたらす豊かな漁場がおいしい海産物をたくさん生み出し、眺望も美しい島ですが、潮流により年間数千トンの漂着ゴミが押し寄せてきます。島の住民や漁業関係者がゴミを回収していますが、拾っても次のゴミが流れ着くのが現状です。この漂着ゴミの問題に対し、「奈佐の浜プロジェクト」が設立され、伊勢湾・三河湾の流域・沿岸である三重県、岐

阜県、愛知県の各地から自然愛好家や環境活動グループが参加し、清掃活動に取り組んでいます。三重は「四日市ウミガメ保存会」が事務局を引き受け、保存会会長の下田菜生さんが代表を務めています。清掃に関わるだけでなく、参加する学生が現地です。インタビューを取って、「奈佐の浜プロジェクト」のユーザー動画を作ったり、若い人の力で活動をSNSで発信しています。



山田 和幸さん



代表の下田 菜生さん

でも減り、企業も環境問題に取り組むようになりましたが、ゴミを回収することはできても、次々と流れてくるのが現実です。「海に流出したマイクロプラスチックの問題も出ていて、全ての回収は困難です。海のゴミをゼロにする難しさも感じています」と下田さんは課題と向き合います。

「奈佐の浜プロジェクト」は、令和5年6月の第25回日本水大賞にて、これまでの実行力、継続力が評価され、市民活動賞を受賞しました。清掃活動後に環境学習会を開いて子ども向けのフィールドも用意するなど、次世代に繋げていこ

うとする姿勢に共感が集まりました。また下田さんをはじめ、岐阜代表は下田さんと同い年、愛知も23歳と、世代交代がうまくできていることも評価されました。大学生で参加し、卒業してもサポートで入ったり、体制がしっかりしています。

「四日市ウミガメ保存会」の設立は平成21(2009)年1月。現在20人ほどの会員がいて世代は20代から80代と幅広く、毎月第1日曜日午前8時から四日市市楠町吉崎海岸の清掃活動には、年間延べ2400人の参加があります。会の名前と活動は広く知れ渡っています。清掃活動は約1時間、その後、自然に関する勉強会や月によってイベントも開催しています。かつては親子連れの姿が多かったようですが、今は高校生の参加も増えています。また「進学で離れることはあっても帰省ついでにと



交流会で各県から参加の学生が意見交換※



子どもたちは漂着物でフォトフレーム作り※



奈佐の浜での清掃活動に150人ほどが集まる※



第25回日本水大賞表彰式※

か、車の免許をとったから走ってきたよ

とか、近い世代の人たちが来てくれます」と下田さん。ボランティア活動が、故郷を想うみんなの戻って来れる場所になっているようです。

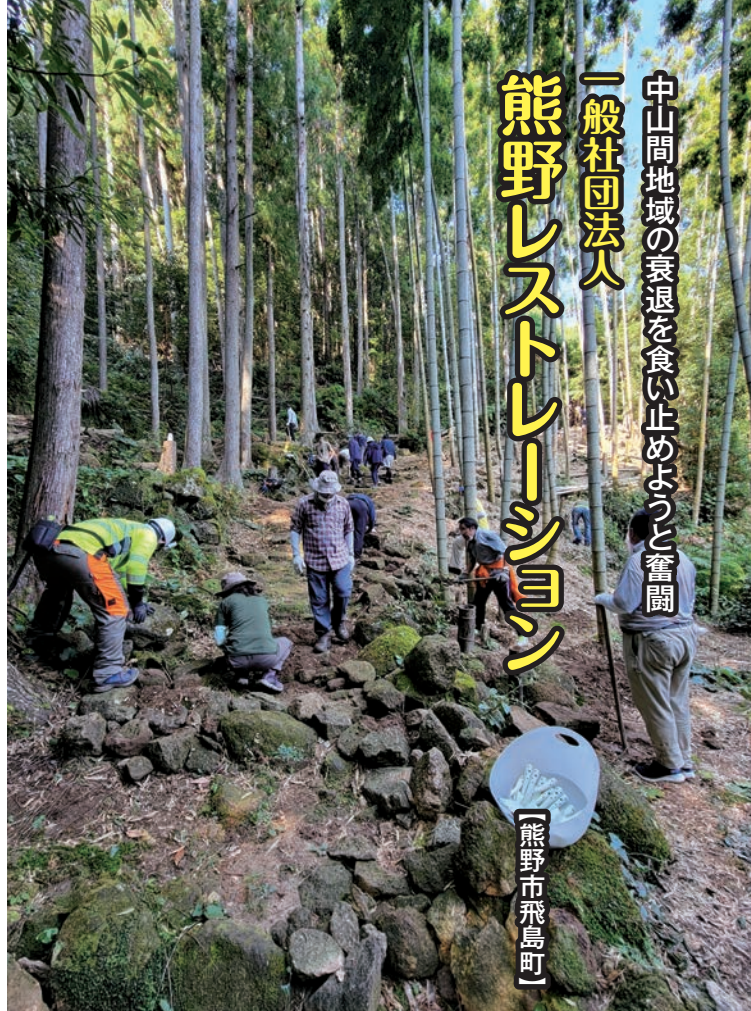
お問い合わせ
「22世紀奈佐の浜プロジェクト委員会
三重事務局」
TEL 090-3951-5881
山田 和幸副会長

※印の写真は取材先から提供していただきました

中山間地域の衰退を食い止めようと奮闘 一般社団法人

熊野レストレーション

【熊野市飛鳥町】



熊野古道・大吹峠での景観保全活動※

発足のきっかけは平成23(2011)年9月の紀伊半島大水害。大型台風により、湿った空気が長時間にわたって紀伊半島に流れ込み、山沿いを中心に広い範囲で記録的な大雨をもたらしました。「中山間地域の田舎でひとたび災害が起きてしまうと、どうしても衰退が激しく

なる。それを少しでも食い止めることができた」と「熊野レストレーション」代表理事の端無 徹也さん。自身の故郷・熊野市飛鳥町でも被害を受けました。各地の災害発生時にボランティア活動の経験があった端無さんは、森林里山保全活動を主に、災害発生時はテクニカル



代表理事の端無 徹也さん

ボランティアとして活動しようとした。現在のメンバーは30代から70代までの35人。3分の1は地元、東紀州在住ですが、ほとんどが関東から九州の各地に散らばり、遠方から駆けつけてくれます。三重県とも災害支援協定を結び、県内でSOSを求める声があれば、生活に関わる災害木の処理を中心に、現場へボランティアを派遣し、市民活動ネットワークと状況を共有しています。また台風の予報が出れば、現地地しかわからない情報をフェイスブックで案内しています。

熊野古道サポーターズクラブ法人会員でもあり、熊野古道伊勢路の大吹峠、逢神坂峠の2か所で景観保全活動を行っています。月に1度の見回り、台風などにおける被害を情報収集し、風倒木や落ち葉が石畳を覆ってしまった場合、復旧作業に当たります。「峠道を機材を背

負って登り、チェーンソーなどは資格を持つ者が相応の装備で対応しています」と端無さん。

災害時のほか、耕作放棄地の有効活用も飛鳥町周辺で行っています。「放っておけば、シカやイノシシ、サルといった獣害がひどくなってしまいます。この地域では柑橘や梅以外での農業は簡単ではありませんが、育てる楽しさがあります。アドバイスしてくれる人も今な

験農場「飛鳥熊レス村」を運営。里山林の保全や、グリーンツーリズムコーディネートとしての森林体験活動、また、森林里山保全活動の一環で、ロープを使って安心・安全に自分の力で木登りする新感覚のアウトドアアクティビティ・ツリークライミング、LEAFプログラムを取り入れた環境教育といった森林レクリエーションを体験できます。里山保全のために、支障木を伐る「株式会社熊野支障木伐採サービス」も設立。災害復旧の依頼だけでなく、建物や家屋に覆いかぶさる支障木の伐採依頼や相談が増えているようです。

また、各地の花火大会などでゴミの分別ボランティアを担ったり、関西支部では能勢高原ドローンフィールド周辺(大阪府)の遊歩道景観整備を継続し、これまでの活動を生かした災害支援をテクニカルボランティアとしての要請で、県外へ出掛けることもあります。立ち上げから11年。地道な活動が、美しい里山の風景を保ち、衰退の先送りの手本となっているようです。継続は力

お問い合わせ

一般社団法人熊野レストレーション
TEL 090-8658-6601



手入れされた飛鳥の集落※



熊野古道での見回り※



耕作放棄地での田植え※



紀北町燈籠祭でのゴミ分別※



能勢高原の遊歩道景観整備※

NPO法人 みんなの食堂こむすび舎めいわ町

地域の子どもから高齢者まで誰もがともに遊び・学び・笑いあえる場づくりをめざす「NPO法人 みんなの食堂こむすび舎めいわ町」(多気郡明和町)。地域のつながりが薄れつつある時代に、学校や社会福祉協議会、地元の企業などと一緒に、地域ぐるみで居場所づくりに取り組んでいます。



代表 山路 由香さん

お問い合わせ

「NPO法人 みんなの食堂
こむすび舎めいわ町」
多気郡明和町斎宮 938-9
TEL 080-4223-1660

放課後の小学校の運動場で焼き芋のおいしそうな匂いが漂い、子どもたちのワイワイ楽しそうな声が響きます。地域の高齢者なども一緒に楽しみ、自然と笑顔があふれています。そんな「居場所づくり」の活動について代表の山路 由香さんに伺いました。

—活動のはじまりは？—

山路：令和元(2019)年6月、前代表が高齢者や子どもたちのつどいの場づくりをした」とつどい子ども食堂をはじめました。外で遊ぶ子どもをみかける機会が減り、子どもと地域とつながる場をつくりたいという想いがきっかけ。

けでした。しかし活動拠点の建物の老朽化やコロナ禍での対面活動の休止に伴い、時代の変化に合わせて活動を見直し。令和4年1月に活動や名称を変更して法人化しました。現在は町内外の20名程度が活動しています。

—法人名の由来は？—

山路：おむすびって米粒がぎゅっと集まり、味や形も色々ですよ。子どもを中心としておにぎりのように色んな人が集い、縁を結べるように、という想いで、みんなで話し合っって名付けました。

—どんな活動をされていますか？—

山路：子どもたち、保護者、地域住民に対して、食事やイベントを通じて「居場所」と「活躍の場」を提供する事業に取り

組んでいます。

—具体的に？—

山路：月1回、日曜に開催する定期開催イベントでは、手づくりの特製カレーを大人300円、子どもは無料と誰もが参加しやすい低価格で提供しています。また地域の人の得意を活かした手品ショーや縁日、普段家庭ではできないような工作などの遊びを提供しています。食材班とイベント班に分かれ、その時期に合わせた内容を企画しています。

—他にはどんな活動がありますか？—

山路：毎週水曜は小学校が早く終わるので「放課後開放デー」として、学校横にある会館をお借りし、学校帰りにふらっと立ち寄り、友達と一緒に宿題をしたり、

遊んだりできる居場所をつくっています。地域のお年寄りと一緒に認知症について学んだり、焼き芋をしたり...と学校ではできない経験を提供しています。

毎回、色んな学年の子どもが20名程度訪れ子どもはもちろん、地域のお年寄りにとっても安心して過ごせる憩いの場になっています。

—フードドライブやフードパントリーの活動もされていますね。

山路：毎週火・木曜の午前中に事務所でフードパントリーの受け入れをしています。食品や日用品のほか、地元のおじいちゃん・おばあちゃんが新鮮な野菜や米を持ってきたり、日用品は定期開催イベントで子育て応援のために無料配布したり、食材は「放課後開放デー」や社会福祉



「放課後開放デー」



アナログゲームで遊ぶ子どもたち



地域の人と一緒に焼き芋体験



フードパントリーの活動※

協議会とともに取り組む「OBENTOプロジェクト」で活用したりしています。

—「OBENTOプロジェクト」は？—

山路：コロナ禍で活動ができなかったときに「何か私たちにできることはないか」と社会福祉協議会に相談し「生活に困っている家庭が多い」という課題を知りました。そこで障害福祉サービス等指定事業所が運営するカフェと連携し、コロナ禍で経済的な影響を受けている家庭に週2回手作り弁当を無償提供する活動をはじめました。現在も約25世帯に届けています。

—今後の展開は？—

山路：子どもたちと触れ合うと、こちらの方が元気をもらえます。これからも地域とつながることで豊かな経験を提供していきたいです。しかし私たちでは難しいところもあるので、地域の力をお借りし、楽しみながら子どもも大人も一緒につながり合える場所をつくってきたいですね。

—「地域ぐるみ」「つながり」をとても大事にされる活動がこれからも広がり、続いていくようにですね。

インタビュー…中川 絵美子
*家庭で余っている食品を集め、生活困窮者や福祉施設など必要とする人に寄付する活動。



せせらぎの間こえる道に中世のおもかげを辿る

名張市 奈垣周辺

近鉄「名張」駅から南東へ3キロ余り離れた「つつじが丘」は、郊外に広がる住宅街。今回はここを起結点として、奈垣と呼ばれる地域を中心に歩きます。

住宅街から少し歩くだけで、雰囲気が大きく変化し、山中に入り時代を遡ったような趣きのある風景が続きます。付近には中世の北畠氏の武士たちの居城跡などが点在し、コース沿いにある社寺も、中世の武士にゆかりのある場所。所々にせせらぎの音を聞きながら、つましくも力強い、昔の人々の祈りの場所を訪ねての散策です。

案内をお願いしたのは、「ボランティアガイドおきつも」の松本直美さん。伊賀の名所を知り尽くしたガイドさんお勧めの、穴場的なコースです。起伏の多い道ですので、古の物語に思いを馳せながら、自然を楽しみ、ゆったり歩くのがお勧めです。

取材・文：堀口裕世

住宅街から一気に山中へ

縦横に整備された道に沿って、家々が立ち並ぶ「つつじヶ丘」。今回は、「つつじヶ丘」のバス停からスタートです。



「つつじヶ丘」のバス停

「つつじヶ丘」中央の通りを南へ進み、南端の分岐点で右の坂を下ります。ここは非常に急な下り坂。交差する道の下をくぐると、道の両側の風景が一変し、山里にきたようです。林の中を大きく



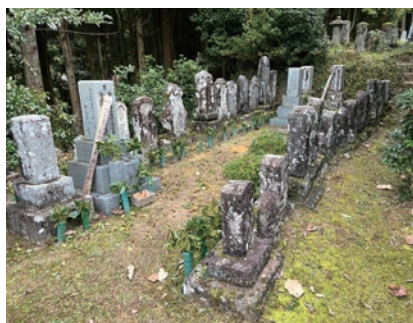
急坂のカーブ地点



國津神社の一の鳥居



妙楽寺の本堂



下山氏の一族の墓もある裏山

田園の道を武将の眠る寺へ

く右に左にとうねりながら続く坂道は、次第になだらかになります。しばらく歩くと、道は鋭角に左に折れ曲がり、再び急な下り坂。この坂の正面、白壁の蔵がある家の下で、また右に大きくカーブ。ここから眼下の風景を見下ろすと、小高い丘の間に田園が広がり、これから歩く道が見えます。田の間にぽつりぽつりと家がある、昔ながらの日本の里らしい景色です。

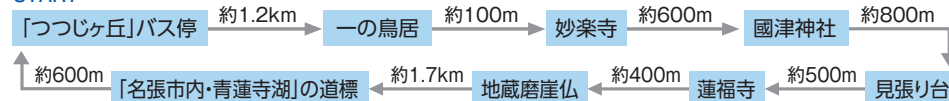
坂を下りきって県道693号を右へ。



「ボランティアガイドおきつも」の松本直美さん

■ 行程図 所要時間／約2時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。

START



すぐに、左の細い道の脇に鳥居と石灯籠が見えます。これは、この先にある國津神社の一の鳥居。まずは鳥居の横の分かれ道を妙楽寺に向かいます。

妙楽寺は前方の小高い丘の麓。「不動明王をご本尊とする真言宗のお寺で、昔は國津神社の神宮寺(別当寺)でした」と松本さん。本堂裏手の一段高くなった墓所には、中世にこの付近の土豪であった下山甲斐守とその一族の墓もありました。「下山甲斐守は北畠氏に仕えていましたが、北畠氏が織田信長軍に敗れた後、第一次天正伊賀の乱では織田軍侵攻の



見張り台



蓮福寺



双仏石



川辺の地蔵尊磨崖仏

ると、今度は下り坂。道がUの字に曲がったあと、二又に分かれます。その分かれ目に苔むした岩があります。「これは見張り台です。右手に広がっているのは下山甲斐守の城跡で、この石の上に立つて、見張りをしたといわれています。この付近には、北畠具親やその臣下の屋敷や城跡がいくつもあつたようですが、城は山の上にあつたそうですが、跡には建物などはもうないとのこと。今回は山には上らず、城跡の山を見上げ、古のつわものたちの夢の跡を偲んでさらに進みます。

しばらく木々の間の道を歩くと、左からゆるやかに上つて来る道と、急角度で下りてくる右からの道が鋭角に交差しています。まずは右の坂へ。カーブを描いて上がった先にあるのは蓮福寺です。「ここは、一つの石に二体の仏像が彫られた、双仏石があり、古いものは延元4(1339)年の銘があります」。

でご注意ください。小川に架かる橋の手前まで下りると左に岩があり、川に向かう面に小さなお地蔵様が彫られています。地蔵尊を拝んだら、蓮福寺下の交差点まで戻ります。右の林の中の道を道なりに進み、県道693号に出たら右へ。「名張市内・青蓮寺湖」の道標のある交差点を左に曲がると「つつじヶ丘」に至る道です。

*バスの本数の少ない時間帯がありますのでご注意ください。

問 名張市観光協会内

「ボランティアガイド おきつも」
TEL 0595-16319087

せせらぎが流れるお社へ

妙楽寺を出て鳥居まで戻り、左の坂道を上って行くと國津神社があります。神社の手前、小川に架かった小さな橋を渡ると、大きな岩が並ぶ一つに不動立像

手引きをして伊賀の土豪衆の恨みを買ったといわれていますが、第二次の戦いでは土豪衆とともに戦ったともいわれ、その行動には諸説あります。北畠家の再興のため、織田軍に協力する姿勢を見せるという両面作戦が、戦国時代を生き抜くための常道だったのかもしれない。

磨崖仏があります。不動尊とはいえかわいいたく素朴なお姿。「昔は上から水を落とすようになっていたといわれています。江戸時代に彫られたものですが、平常眼という古い形の眼をしておられます」。

双石仏と
小さなお地蔵様に会いに
さらに坂を上がり、数軒の民家を越え

松本さんの後を本殿の右脇に進むと、石の小さな祠がお祀りされています。「蘭神社といって、天明年間(1781-89)に疫病封じのためにお祀りされました。さらに奥には山の神さまも祀られています」。先ほど訪れた妙楽寺やこの國津神社付近も、手入れが行き届き、昔の素朴な信仰が今も地元の方たちに大切に守られているのを感じます。



素朴なお不動様の磨崖仏



國津神社



蘭神社の小さな祠



山の神

守りたい、いのち
三重県指定希少野生動植物種

絶滅のおそれのある動植物種のうち、特に保護する必要がある種で、
三重県指定希少野生動植物種として指定している野生動植物を紹介します。



ムシトリスミレ

被子植物双子葉類タヌキモ科

◆ 分布 ◆
中勢

湿り気のある岩や地面に生える多年草の食虫植物。北海道、本州の中部以北と紀伊山地、四国に生育する。西日本では、もともと産地が局地的であつたうえに、園芸用採集などにより減少している。三重県産の個体群は変種「イイタカムシトリスミレ」とされる。

資料・写真提供：三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

■ お問い合わせ

三重県 農林水産部 みどり共生推進課 野生生物班

TEL:059-224-2578 メールアドレス:midori@pref.mie.lg.jp

*三重県指定希少野生動植物種を県ホームページに準じて紹介しています。

*県ホームページで他の野生動植物種をご覧になれます。

表紙写真 「魚と子どものネットワーク」(亀山市栄町 写真は四日市市の鈴鹿川河口)

百五銀行のホームページで、「すばらしき"みえ"」のバックナンバーをご覧いただけます。
<https://www.hyakugo.co.jp/mie/>